

それぞれの歴史に幕を降ろし 共に新たな道を歩み始める

合併を間近に控えた2月から3月にかけて、それぞれの市町村ではその歴史に幕を降ろす式典が行われました。

に係る協議書の締結を行い、翌10日に5市町村で一斉に告示が行われました。そして3月25日、5市町村長がそろって栃木県庁を訪れ、知事に合併申請書を提出しました。
平成15年10月に法定合併協議会が設立されて以来、1年半に及んだ合併特例法に基づく合併手続きはすべて終了しました。



2月11日 日光市閉市式
市内7小学校の代表児童が「未来へのメッセージ」を読み上げ、今後の飛躍を宣言した。



2月26日 足尾町閉町式
足尾中学の生徒による歴史紹介や名物「直利音頭」などで町の歴史をしのんだ。



3月15日 今市市閉市式
記録写真で市の歩みを振り返り、新市に対する期待を綴った中学生の作文が発表された。



2月18日 栗山村閉村式
117年にわたる歴史を持つ栗山村。その閉村により栃木県から村が消えることになった。



3月11日 藤原町閉町式
子ども獅子舞や竜王太鼓が披露され、会場を盛り上げた。



3月16日 日光地区広域行政事務組合閉庁式
合併により広域行政事務組合もその役目を終え、担当事務は新市に引き継がれた。

新「日光市」の誕生に向けて

合併特例法に基づく合併手続きはすべて終了し、舞台は「合併協議の調整方針」から新「日光市」誕生に向けての「具体的な合併準備」に移りました。これは、新「日光市」がスムーズにスタートし、市民生活に合併による混乱がないよう、5市町村が協力して万全の準備を進めるというものです。そこで、平成17年4月に74の分野ごとに「一元化チーム」(5市町村の担当課長・係長により組織)が発足し、合併協議の調整方針に基づいて、すべての事務事業の一元化調整に当たることになりました。
5市町村の事務事業については、同一のものもあれば、全く異なる基準や方法などで実施されているものも数多くありました。そこで、「いつから」「どのようにして」事務事業を実施するのかについて、あらかじめ調整し、合併に備える必要があります。それが一元化作業であり、合併準備ということになります。